

一般質問



観光産業と農業を連携し、自立経営で所得向上をめざす施策は

黒沢 龍己



待たれる不感地工リアの解消

質問

仙北市が誕生して、九月。「観光産業を活性化させた北東北の拠点都市」を目指す仙北市として、観光産業と基幹産業である農業と、どう連携し結びつけて行くのか。

特に「米」作り農家の所得向上、自立経営が出来るような施策について、石黒市長はどう考えているか。

市長

現在、仙北市の農業生産高は、仙北市全体の四・五%の約四十五億円であり、その内「米」の生産高が

六十%、その他の作物が四十%である。大曲仙北地域では、七十五%が「米」である。

県仙北地域振興局では、その割合を五対五にする目標であるが、仙北市としては、高品質米、米の加工品などで他との差別化をはかっていきたい。

さらに「山の楽市」などでのイベントでPR活動を行っているが、まだまだPR不足だと思っている。今後各地でのPRに力を入れるとともに、その種を实らせるように、

個々の農家が直接販売できるようなルートを作り、農家の所得向上と観光産業に結びつけていきたい。

種苗交換会を仙北市で

質問

秋田県農業の最大イベントである種苗交換会を仙北市で開催できないか。百二十八回を数える種苗交換会

は、昨年鹿角で開催され一週間で、七十六万五千人、一昨年の大曲市では、百五万人の動員があった。かなりの経済効果が期待できるイベントである。会場も広域交流センターを中心統合される西長野小、東小の体育館、そして来年行われる国体の馬術競技会場の跡地利用も考えられる。

明治十一年から開催され、秋田県農業に多くの貢献を果たしてきた種苗交換会を仙北市に誘致する考えはないか。

市長 一昨年、大曲市で開催した時に、全体の費用が五千二百万円、その内開催地負担が約二千万円であった。

施設、財政等の問題もあり、今すぐはできないが、かなりの経済効果も見込めると思う。今後、総合計画の中で七年後開催に向けて誘致活動をしていきたい。

仙北市エリアの携帯電話不通話の解消計画は

質問

国道、幹線道路など大部分は、不感地域の解消はできていると思うが、現在、仙北市内で不感地域はどのくらいあるのか。また合併前の建設計画に入っている計画の進捗状況はどうなっているのか。

市長

花葉館周辺は、FOMAの新機種で対応できるようになったが、仙北市エリア内では、山谷川崎、柴倉、湯、上院内、湯野、八割、中里、戸沢、の八地区が不感地域になっている。今後も国、県、事業者に対し強く要望していく。



国体馬術場